

# 聖文研究の方法と技術

**名前の置き換え**— 聖文にある教義と原則を自分の生活に関連付けることができるように、聖文に登場する人の名前を自分の名前に置き換えます。この聖文研究の技術を、マタイ 16:15 – 17 のペテロの名前で試してみてください。

**原因と結果**— 聖文の中から福音の教義や原則を見つけられるように、「もし……ならば、その結果……」と「……なので、その結果……」の関係を見つけてください。この技術をマタイ 6:14 – 15 で試してみてください。

**聖句リスト**— 聖文には、指示や警告などを幾つか挙げたリストがしばしば載せられています。リストを見つけたら、一つ一つの要素に番号をつけてみましょう。この技術をガラテヤ 5:22 – 23 で試してみてください。

**対比**— 聖文ではしばしば、アイデア、出来事、人々が対比されています。こうした対比が用いられるのは、福音の原則を強調するためです。一つの節や章の中、また幾つかの章や書にわたって対比を見つけてください。この技術をマタイ 5:14 – 16 で試してみてください。

**視覚化**— 聖文を読むときには、その様子を頭の中で想像するために役立つ詳しい描写を見つけてください。ある特定の出来事に居合わせていることを想像してください。この方法は、聖文で読んだことが実際に起こったことであるという証を強めるのに役立ちます。この技術をマタイ 8:23 – 27 で試してみてください。

**象徴**— 「……のような」などの言葉は、象徴を見つける助けになります。象徴の本質についてよく調べ、その属性について深く考えることで、象徴が表していることを読み取ります。脚注、『聖句ガイド』などの聖文研究補助資料は、一部の象徴を解釈するために役立ちます。この研究技術を、マタイ 13:24 – 30 で使ってみてください。

**相互参照**— ある聖句が別の聖句の言葉や内容を説明したり、明らかにしたりすることがよくあります。脚注、索引、『聖句ガイド』などを使って、聖句を互いに結びつけて考えると、聖句の意味を明らかにする助けになります。3 ニーファイ 15:21 を読んでから、脚注の参照聖句に従い、ヨハネ 10:14 – 16 を開いてこの技術を練習してください。3 ニーファイ 15:21 を読むことは、ヨハネ 10:16 の意味をもっとよく理解するのに、どのように役立つでしょうか。

**深く考える**— 深く考えることには、思い計ること、瞑想すること、質問すること、自分が知っていることやこれまで学んだことを見極めることが含まれます。深く考えることは、福音の原則を応用するには何が必要かを理解するのに役立ちます。ヘブル 12:9 に書かれた真理をどのように当てはめることができるか深く考えてください。

**応用する**— 聖文の教義と原則を認識して理解すると、発見した真理を行動に移すことによって、より深い知識を得ることができます。イエス・キリストは次のようにおっしゃいました。「〔天の御父〕のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」（ヨハネ 7:17）個人で聖文を研究しながら、学んだことを応用する機会を見つけてください。

